

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム朝風Ⅱ	評価実施年月日	H19.10.1～H19.11.15
評価実施構成員氏名	掛端 登美 ・ 輪島 喜代子 ・ 矢崎 友子 ・ 大友 佳子 ・ 西野トキ ・ 菅原 栄 ・ 田村 昌子		
記録者氏名	掛端 登美	記録年月日	H19.11.13

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「穏やかな生活の中でご利用者の命と心を守り、ご家族の心身の緩和に努めます」という理念を掲げています。住み慣れた地域で地域の特性に応じて多様で柔軟なサービスが可能となるよう努めています。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ホームの運営理念を2階の入り口ホーム内に額に入れ見やすい位置に掲示し、全ての職員は運営理念を述べる事が出来るよう日常的に話をし取り組んでいます。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議にて地域包括支援センター職員及びはまなす老人会クラブ会長統括管理者などに集まってもらい活動状況の報告や施設に対する要望、助言、評価をもらい家族や地域の人々に理念を理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>地域運営推進会議を通し、だんだん気軽に立ち寄ってもらえるような関係になるよう機会あるごとに努力中です。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>曙台1町内会定期総会、山口小学校交流会、資源回収行事などにも出席し、地元の人々と交流を深めるように努めています。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>今後考えて生きたいと思っています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>ケアサービスの質の評価意義について職員に周知し評価結果をサービス改善にかしている。又その体制がある。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>二カ月に一回運営推進会議を開催し、意見の交換をしサービス向上に生かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>管理者連絡会議、市介護保険課のアドバイスを受けながらサービスの質の向上に取り組んでいます。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>介護支援専門員の研修で学びスタッフに伝達し、必要な人には活用できるように支援していきたいと思っています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>介護支援専門員の研修で虐待について学びました。スタッフと意見交換をし、虐待に関する知識、理解を深め防止に努めます。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時、解約時には十分な説明を行い、利用者、家族等の納得のもとでトラブルのないよう努力をしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情処理では職員間のカンファレンスを通して改善のため回答を検討する体制を作っており速やかに対処するよう努めています。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族来訪時、管理者が最近の様子、健康状態など報告、金銭管理については毎月月末に明細書を郵送して了解を得ています。職員の移動については朝風Ⅱだよりなどで報告しています。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	第三者委員会を設置しています。苦情があれば積極的に解決していきます。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝理事長でもある院長先生の訪問があり、利用者の健康状態を相談し申し送り後には看護師長に対応困難事例の相談が出来ます。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	月一回の管理者会議にて話し合い、必要に応じて柔軟な対応が出来るように努めている。(お花見・収穫祭など行事のあるとき)		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	グループホームに適した資質を有する者を採用し離職を少なくし、利用者へのダメージを防いでいる(併設の協力病院で介護をし、十分な経験があり認知症の理解のあるものが多い)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>毎月曜日、朝礼で理事長の訓話があり介護と医療についての助言をいただいております。毎朝統括管理者より指導を受けています。福和会の講演会など働きながら学んでいます。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>札幌市グループホーム管理者連絡会議、手稲区管理者会議に参加し、情報、知識を得て法人グループの管理者会議で常に話し合っています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員相互の親睦を図り、ひとりが抱え込まないように発言しやすい雰囲気を作り、自由に提言や悩みを話せるよう心がけています</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>理事長の毎朝の訪問によりグループホーム内の様子を把握していると思われる。向上心をもてるように問題意識を持って日常生活の援助をする。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人、家族からよく話を聞いて利用者本位にたった支援が出来るように努めています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>これまで援助してきた家族の思いを知り、尊重し、安心して貰えるように努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族の思いを良く聞いて他の利用者さんとの調和も考えながら穏やかに暮らせるケアを考えていきます。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	サービスをいきなり開始せず、何回か訪問してもらいどんなところかを良く知ってもらって安心し、納得してからサービスを開始しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	自尊心を傷つけないよう出来ないことはさりげなく援助をし、本人の得意なことは手伝ってもらい生活に張りを持ってもらえるように援助している。(食器洗い、洗濯物畳み、縫い物、畑仕事など)		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の話を傾聴し、思いを受け止め又本人の状況、思いを知ってもらい一緒に支えていく関係作りをいつも考えていくように心がけている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	モニタリングを行いケアプランを提示し説明。要望を本人及び家族から聞き、方向性を修正しよりよい支援となるように心がけている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	入居者がひとりになったり、気のあった入居者同士で自由に過せるような居場所を確保している。家族、知人が自由に来居出切るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い入居者同士が過す場所がありいつも楽しく会話をしているので見守り、孤立しがちな入居者さんにはさりげなく声かけをし、交わえるよう配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	何かあったらいつでも声をかけてくださいと継続して関係を続けられるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族の声をいかし、本人がよりよく暮らすための課題を皆で探り本人本意に検討している。(十分に話を聞く、顔を見ての対話、短くわかりやすい言葉で)		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時は入居前の施設より、添書等の情報提供をいただきご家族からも十分な情報をもらっています。ご本人の転居に伴う不安の軽減に努め不穩に結びつかないように対処しております。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	アセスメントによりケアプランを作成し、スタッフでカンファレンスを適宜行い情報を共有しながらプランについて評価し共通の理解を得ている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアカンファレンス会議を入居者それぞれ月一回実施している。状態により必要があれば随時行い検討し、記録に残し全員が周知できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態変化があれば再アセスメントを行い見直して再立案している。(本人、家族の必要な関係者との話し合い)		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々個別介護記録を通して観察把握し客観的な記述によりアセスメントにいかしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防訓練の実施又警察による周辺地域の防犯等の協力が不可欠のため日常的に継続して連携をお願いしていきます。グループホームのパンフレットを近くの店や区役所に置いてある。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の意向や必要性があれば支援していきたいと思います。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を定期的開催し関係を深めて地域包括支援センターと協力できるようにしたいと思っています		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	24時間対応で緊急時等併設の病院に受診できまた訪問歯科は近隣の先生が診察にこられている。看護師も携帯電話等により相談を受ける体制となっている		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関と随時相談、受診、往診ができる		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護師であり協力医療機関と随時も相談し健康管理をしている		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は病状の把握等医療機関と随時相談し訪問している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	協力医療機関を通し家族が納得できるよう良く話し合っ全員で方針を共有している		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	協力医療機関を通し、病状の把握をし現在の状況を知り、今後どうしていくのかなどチームとして終末期の支援に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>保健医療福祉の関係者と十分な情報交換と話し合いをし、住み替えによるダメージを防ぐように努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人の人間として尊重し、個人情報利用同意書にも説明、納得の上承諾していただきプライバシーを守るようにしている</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の希望や自己決定を大事に援助している</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入浴や食事ホールでのレクリエーションなどに本人の意思を尊重し、好きなときに自分のペースを守れてのんびりと暮らせるよう配慮している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>月一回の床屋やパーマ、毛染めはそれぞれ外部から来てもらっている。本人が望めば外の店にもいけるよう配慮している</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>献立会議を月2回栄養士を交えて行い、入居者の希望で好みを伝え(特に行事食)献立や調理にいかしている。その都度声かけをし手伝ってもらう。食事と一緒にしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の嗜好を知り取り入れるように努めている。お酒、タバコは現在たしなむ人はいない		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	1人ひとりの排泄パターンを知り声かけをしたり、必要があればさりげなく付き添う。訴えがある時には待たせないようにする。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個々の入居者さんの入浴状況を知り危険のないよう配慮し、意思を尊重できることには応じ、不快を与えないようにする。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者さんが一番落ち着く場所(自室等)で休んでもらい、状況により寄り添ったり暖かい飲み物をすすめたり話を聞いたりして支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食器洗い、配膳、下膳、お茶いれ、清掃、洗濯物たたみなど日常的に行っている。新聞を購読したり、週刊誌や雑誌を読んだりしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理の出来る方にはお金を持っていていただく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	グループホーム周辺の散歩はいつでも可能で、声かけして行っている。買い物等で出かけた希望があれば同行している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ホーム主催のお花見や山口小学校の運動会見学、盆踊りや敬老祭の参加等実施しています。家族や親戚の方が来居時、入居者さんの日頃の思いを伝え、出かけられる機会をつくり支援しています。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	スタッフが付き添って電話をかけに外へ行っている。また、話しているときは少しは離れたところで見守っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	出来るだけ気軽にご家族がこられる家庭的な雰囲気心がけ、居室のほかにはホールの広さも十分にとり、あちこちで談話を楽しむスペースを作っています。気楽に来居できるような心がけています		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないケアを実践しスタッフ全員が認識している		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけずスタッフが常に全体の動きを見守っている。夜間のみ施錠している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の見守りが出来る位置で各スタッフが業務に従事している。特に夜間は食堂で記録を行い室内の物音や居室の様子がわかるような状態で見守っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ポリデントを誤って飲んでしまった方には預りとし、危険が予測できることには工夫していく		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時はすべて協力病院当直医の指示をもらうことになっています。離設などで行方不明となったときは報告、捜索、連絡等、事業所グループ共通のマニュアルがあります。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	誤嚥させないように見守りしていますが万が一事故発生した場合を想定し勉強会をしています。緊急時は協力病院の医師の指示をもらうことになっています。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防訓練等の実施、又警察による周辺地域の防犯等地域の協力が不可欠のため日常的に継続して連携をお願いしていきます。(町内会会長とよく話し合い、災害時に協力を得られるようにしている)		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	利用者さん1人ひとりに起こりうるリスクについては前もって話をし理解が得られるようにする。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	状況変化を見逃さずバイタルチェックをし観察等客観的に介護記録を残し、すべての職員に申し送りで伝えています。またいつでも外来看護師、医師への相談ができ、異常があればその都度家族に連絡を入れて対応の相談をしています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	投薬表や定期薬、臨時薬の説明書を作成間違いのないように支援しています。臨時薬についてはどういう症状があつてどうして投薬になったか副作用などについてスタッフ全員にわかるよう申し送りノートに記入しています		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事や水分摂取に気をつけ毎日の体操、散歩などリズムのある生活に努めている		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎日入れ歯の洗浄や手入れを促し出来ない方には介助しています。毎食後のうがいや朝夕のハミガキも実行していただいております。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日の摂取量は特別食の指示のない場合約1580kcalとしている。毎食事を観察し摂取量が少なければ記録に残している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに対してはうがい手洗いの励行室温(20~22℃)湿度(60~70%)を目安にし血液による感染に対しては取扱に注意すること。ノロウイルスについては感染源をもちこまないようなど対策マニュアルを策定しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾やまな板は塩素系消毒剤で毎日殺菌消毒を行い、その他の食器は洗浄後食器乾燥機で乾燥させています。又冷蔵庫内は2週に1回塩素系消毒剤で清拭後水ぶきしています。洗濯は衣類と塩素系消毒剤を入れて消毒しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前に季節の飾りつけ(クリスマス・お正月等)をしたり、春には草花の鉢植えを置き家庭的な雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビの音は入居者に合わせるようにしているが騒音にならないような配慮、まぶしさ、日差しについてはカーテンで調節している。四季折々の行事で季節感を楽しんでいただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	好きなときに座れるようなベンチやソファをあちこちに置き寝転がったりお茶を呑んだり出来る場所を作っている		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いたれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたタンスやイス、思い出の品や写真その他の装飾品、仏壇等があり個人個人の安心した居場所となっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気システムがありボイラー設置して室温調節を適温に保っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者ひとりひとりが出来ることには参加してもらい(食器洗い、配膳、下膳、お茶入れ、料理の手伝い、掃除、洗濯物たたみなど)日常的に行っている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>本人の気持ちや希望に合わせて援助している(リハビリ、行事等声かけ希望されたときに行って貰ったりしている)</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>グループホーム周辺の散歩、後に畑があるので春になると、トマト、ナス、きゅうりなどを植えて収穫を楽しみ、近くのスーパーに買い物に行ったりそのときの体調、天候、職員数などにより工夫し実施している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ◎①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ◎②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ◎②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ◎②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>◎①大いに増えている ◎②少しずつ増えている ◎③あまり増えていない ◎④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>◎①ほぼ全ての職員が ◎②職員の2/3くらいが ◎③職員の1/3くらいが ◎④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>◎①ほぼ全ての利用者が ◎②利用者の2/3くらいが ◎③利用者の1/3くらいが ◎④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>◎①ほぼ全ての家族等が ◎②家族等の2/3くらいが ◎③家族等の1/3くらいが ◎④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)